

ラ行の旅

——南九州・ハネムーン作戦——

小林守城

宮崎市・大淀川沿岸のフェニックス

女だっていちどは

ランボーのように

その舌を裂きわけもなく

砂丘をわたるシロッコに

ラーラーと鳴いてみたいのだから

一つの遠い言霊の旅が始まる

暗い大学のキャンパスからぬけて

わたしの裸形の神話が始まったころ

竜宮の光のヒメと

山彦のミコトの国へ

おれの眼と耳のリボルバーよ

神話の歴史の黄昏として

内陸の湿田で膨らんだ腰を撃て

ラリって行け ラ行の連鎖

リリカル・リリック

ルーティン・レボリューション

いま大地は真紅の唇を開いて

招いているハイビスカス

ボーイング七三七・羽田発

八千メートル上空の

コバルトブルー照射

宮崎空港におり立てば

ハマユウの白い腕がからんできて

もう充分にレロレロの腰のロンリだ

日南市・堀切峠のフェニックス

亜熱帯のヤシ科の高木

おれははじめ 五百年に一度

炎の中から蘇るギリシャ原産鳥類の

黄金のくちばしを恐れていたが

なんと 陸棲巨大インギンチャク

潮の引いた岩場の陰なら
太い指をなんども啜えさせよう

ひゅうがカボチャに芋がらぼくとー
おーだから

リュウゼツランの槍の花よ

五十年に一度咲く

日向灘のリングル注射器

日向カボチャのボーイング母音

青島は血潮にぬれたか

ビロー樹のやせた根幹で

ロロンと唄う

よかおごじよ舟歌

やがて 大隅半島の枕ごしに

遠雷のような陽がすべると

もう誰も目撃できない旅となる

係留の港の灯も消え

サボテン公園に夜がくる

さわってみて暗いミコトよ

コトバがまだ痛むのよ

こんな夜には

トーテンポールに雨が降る

コトバは蘇鉄のように

緋色の卵を持てるのかしら

もつと近く 山のミコトよ

さわってみてやってみて

ロンリはもう遠い地方

人は裸形（ラギョウ）で言っていたわ

はやく子種を抱えてしまえ

ロンガイのロンリ

シがこわいのよ

さわってみてかいでみて

夜明けはちかいから急いで

暗いミコトよ

ルルルーの匂いはまだかしら

日南の岸辺では 内陸の垢を洗う
夜明けの前のシャワーの音が響く
おれたちの子種を泡立て
波状岩がいま一つ逆むけてころげ
水成の時間がロホーロホーと目覚めたのだ

(一九七七年作品 改作)